

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																																																																						
東北文化学園 専門学校		昭和58年12月27日		佐藤 直由		〒981-8552 宮城県仙台市青葉区国見六丁目45番16号 (電話) 022-233-8163																																																																						
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																																																																						
学校法人 東北文化学園大学		昭和53年3月17日		土屋 滋		〒981-8550 宮城県仙台市青葉区国見六丁目45番1号 (電話) 022-233-3330																																																																						
分野	認定課程名		認定学科名			専門士		高度専門士																																																																				
工業	工業専門課程		インテリア科			平成12年文部省告示第十五号		-																																																																				
学科の目的	職業人としての意欲と基礎的な技術を持ち、自らの問題意識や目的意識をもって向上できる人材を目指す。具体的には、インテリア業界で求められる美的センス、企画・構成力、マーケティング力、発想力、コミュニケーション力を持ち合わせた人材である。これらのバランスがとれた資質を養うために、インテリア業界と密に連携をとりながら企業・団体が求める人物像を注視していく。そして即戦力となる人材を育成し、インテリア業界の発展に貢献するとともに、多様化する社会のニーズに対し、インテリア業界の立場から貢献できる応用力を備えた人材の育成を目指す。																																																																											
認定年月日	平成27年2月17日																																																																											
修業年限	昼夜	全課程の修了に必		講義		演習		実習		実験	実技																																																																	
2年	昼間	1,845		780		975		90		0	0																																																																	
単位時間																																																																												
生徒総定員		生徒実員		留学生数(生徒実員の内数)		専任教員数		兼任教員数		総教員数																																																																		
80		39		0		2		10		12																																																																		
学期制度	■前期： 4月1日～9月30日 ■後期： 10月1日～3月31日				成績評価		■成績表： 有 ■成績評価の基準・方法 4段階による評価を定期試験やレポート等により総合的に評価																																																																					
長期休み	■学年始： 4月 1日～4月 3日 ■夏季： 7月17日～8月17日 ■冬季： 12月25日～1月 9日 ■学年末： 2月21日～3月31日				卒業・進級条件		卒業) 専門課程に所定期間在学し、かつ所定授業科目を修得して全課程を修了すること。 進級) 試験等により教育課程における学年の所定授業科目を修得すること。																																																																					
学修支援等	■クラス担任制： 有 ■個別相談・指導等の対応 出席不良通知発送、面談				課外活動		■課外活動の種類 清掃活動、献血、卒業制作展 ■サークル活動： 有																																																																					
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(平成29年度卒業生) インテリアメーカー、ハウスメーカー、工務店、住設機器メーカーなど ■就職指導内容 教員で編成したキャリア対策委員会と、専任の職員を配置したキャリアサポートセンターが連携して就職指導を行っている。 就職情報システムを導入し、厳格な個人情報管理の下で学生と教職員が場所と時間の制限無く、就職関連の情報を検索・閲覧することができる体制をとっている。 ■卒業生数 : 10 人 ■就職希望者数 : 10 人 ■就職者数 : 10 人 ■就職率 : 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 100.0 % ■その他 ・進学者数：0人 (平成29年度卒業生の平成30年5月1日時点の情報)				主な学修成果(資格・検定等) ※3		■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成29年度卒業者に関する平成30年5月1日時点の情報)																																																																					
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>二級建築士受験資格(実務経験免除)</td> <td>②</td> <td>10</td> <td>10</td> <td>受験資格</td> </tr> <tr> <td>木造建築士受験資格(実務経験免除)</td> <td>②</td> <td>10</td> <td>10</td> <td>受験資格</td> </tr> <tr> <td>2級管工事施工管理技士(実務経験2年)</td> <td>②</td> <td>10</td> <td>10</td> <td>受験資格</td> </tr> <tr> <td>2級建築施工管理技士(実務経験2年)</td> <td>②</td> <td>10</td> <td>10</td> <td>受験資格</td> </tr> <tr> <td>インテリアコーディネーター</td> <td>③</td> <td>10</td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>色彩検定2級</td> <td>③</td> <td>1</td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>色彩検定3級</td> <td>③</td> <td>9</td> <td>8</td> <td></td> </tr> <tr> <td>福祉住環境コーディネーター2級</td> <td>③</td> <td>1</td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>福祉住環境コーディネーター3級</td> <td>③</td> <td>6</td> <td>2</td> <td></td> </tr> <tr> <td>リテールマーケティング(販売士)検定2級</td> <td>③</td> <td>1</td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>リテールマーケティング(販売士)検定3級</td> <td>③</td> <td>9</td> <td>2</td> <td></td> </tr> <tr> <td>商業施設士補</td> <td>③</td> <td>6</td> <td>6</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>												資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	備考	二級建築士受験資格(実務経験免除)	②	10	10	受験資格	木造建築士受験資格(実務経験免除)	②	10	10	受験資格	2級管工事施工管理技士(実務経験2年)	②	10	10	受験資格	2級建築施工管理技士(実務経験2年)	②	10	10	受験資格	インテリアコーディネーター	③	10	1		色彩検定2級	③	1	1		色彩検定3級	③	9	8		福祉住環境コーディネーター2級	③	1	1		福祉住環境コーディネーター3級	③	6	2		リテールマーケティング(販売士)検定2級	③	1	1		リテールマーケティング(販売士)検定3級	③	9	2		商業施設士補	③	6	6	
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	備考																																																																								
二級建築士受験資格(実務経験免除)	②	10	10	受験資格																																																																								
木造建築士受験資格(実務経験免除)	②	10	10	受験資格																																																																								
2級管工事施工管理技士(実務経験2年)	②	10	10	受験資格																																																																								
2級建築施工管理技士(実務経験2年)	②	10	10	受験資格																																																																								
インテリアコーディネーター	③	10	1																																																																									
色彩検定2級	③	1	1																																																																									
色彩検定3級	③	9	8																																																																									
福祉住環境コーディネーター2級	③	1	1																																																																									
福祉住環境コーディネーター3級	③	6	2																																																																									
リテールマーケティング(販売士)検定2級	③	1	1																																																																									
リテールマーケティング(販売士)検定3級	③	9	2																																																																									
商業施設士補	③	6	6																																																																									
中途退学の現状	<p>■中途退学者 1名 ■中退率 3.7%</p> <p>平成29年4月1日時点において、在学者27名(平成29年4月1日入学者を含む) 平成30年3月31日時点において、在学者26名(平成30年3月31日卒業者を含む)</p> <p>■中途退学の主な理由 進路変更、東日本大震災による精神的被害</p> <p>■中退防止・中退者支援のための取組 教務委員会による年4回の「出席状況報告書」の保護者宛発送。出席不良者本人及び保護者への電話・文書連絡・成績連絡、個人・三者面談等の実施。</p>																																																																											

経済的支援制度	<p>■学校独自の奨学金・授業料等減免制度： 有</p> <p>①指定校推薦支援制度（志望する科の入学検定料と入学金全額を免除）、②AO特待生制度（入学後に入学金半額相当分を給付）、③姉妹校入学優遇制度（入学金全額免除）、</p> <p>④兄弟姉妹等入学優遇制度（兄弟姉妹または両親が卒業生の場合、入学金半額免除）、⑤東北文化学園専門学校奨学金制度（奨学金制度選考において、成績及び経済状況を審査し、その結果に応じて年額60万円、36万円、12万円を原則卒業時まで給付、自己都合による退学の場合を除き返還義務なし）、⑥オープンキャンパス等参加者特典制度（入学検定料半額免除）、⑦東日本大震災により被災した者に対する入学金・授業料免除の特別措置制度</p>
第三者による	<p>■専門実践教育訓練給付： 給付対象</p> <p>■民間の評価機関等から第三者評価： 無</p>
当該学科のホームページURL	<p><a href="http://www.tbgu.ac.jp/college/faculty/interior">http://www.tbgu.ac.jp/college/faculty/interior</a></p>

(留意事項)

### 1. 公表年月日（※1）

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

### 2. 就職等の状況（※2）

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて（通知）（25文科生第596号）」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職（内定）状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

（1）「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職（内定）状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含みません。

③「就職者」とは、正規の職員（雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む）として最終的に就職した者（企業等から採用通知などが出された者）をいいます。

※「就職（内定）状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

（2）「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません（就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う）。

（3）上記のほか、「就職者数（関連分野）」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

### 3. 主な学修成果（※3）

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他（民間検定等）の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果（例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等）について記載します。

1. 「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

（１）教育課程の編成（授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。）における企業等との連携に関する基本方針  
東北文化学園専門学校の教育理念、「本校は、常に時代の趨勢に即応し、実践力になり得る技術の修得と知識の涵養を図り、豊かな人間性を備え、社会に奉仕できる人材を育成することを目的とする。」を踏まえて、若手技術者の育成に研鑽を惜しまない企業と連携を組むこと。  
建築の業界で新技術が導入された場合は、積極的に研修の中に取り入れること。

（２）教育課程編成委員会等の位置付け  
※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

本校には「教務委員会」が設置されており、（１）教育課程に関する事項、（２）授業及び試験に関する事項、（３）その他教務に関する事項を審議することを規程に定めている。また、同規程では教育課程に関する事項を審議する場合は「教務委員会」が「教育課程編成委員会」を設置して審議することができるものと定めており、教頭を委員長として校長が委嘱する委員を含めて組織編成をすること、審議事項及び教育課程について速やかに校長及び教務委員会に報告することなども規定している。

（３）教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成30年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
栗原 憲昭	一般社団法人 宮城県建築士事務所協会 会長	平成30年4月1日～平成32年3月31日(2年)	①
西塚 英毅	株式会社 深松組 企画開発営業部長兼海外事業部長	平成30年4月1日～平成32年3月31日(2年)	①
吉田 大輔	株式会社アルテジア 代表取締役	平成30年4月1日～平成32年3月31日(2年)	①
熊谷 猛	東北文化学園専門学校 教頭	平成30年4月1日～平成32年3月31日(2年)	
渡辺 英隆	東北文化学園専門学校 教務主事	平成30年4月1日～平成32年3月31日(2年)	
長澤 智広	東北文化学園専門学校 教務副主事	平成30年4月1日～平成32年3月31日(2年)	
山田 春文	東北文化学園専門学校 事務課長	平成30年4月1日～平成32年3月31日(2年)	
増田 学身	東北文化学園専門学校 建築デザイン学科長兼インテリア科長	平成30年4月1日～平成32年3月31日(2年)	
佐々木 賢志	東北文化学園専門学校 建築土木科長	平成30年4月1日～平成32年3月31日(2年)	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。）
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

（４）教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期  
（年間の開催数及び開催時期）

年2回（6～7月頃、11～12月頃）

（平成29年度実績） 第1回 平成29年6月20日 14:45～17:15 第2回 平成29年12月13日 14:30～16:30  
（平成30年度予定） 第1回 平成30年7月11日 第2回 平成30年11月21日

（５）教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

新たな基礎科目に「体育」系科目の新設を検討している。体を使って自由に表現するプログラムや、チームで協力して作り上げる内容のシラバスにしていく。学生からの希望も多く、学生同士のコミュニケーションを深める目的やクラスづくりにも役立てたいと考えている。

福祉住環境コーディネーター2級取得は内装業界でも有利であるといった意見や、実務教育として、建築確認申請実務やビジネスマナー等のカリキュラムが有効であるとの外部委員からの意見を積極的に採用している。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

- ① これからの建築業界を担うスペシャリストの育成を目指す。
- ② 実践的な実習・演習を展開する内容に特化する。
- ③ 社会人としてのマナーや礼儀、コミュニケーションを重視する。
- ④ 自らが考えて行動でき、目的意識や問題意識を持てる人材を育成する。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

建築の設計業務に携わっている企業を選定し、学生が広くその業務に携われる体制がとれる企業を選定している。企業との打合せで、実習内容と評価方法を設定し、目標を明確にする。実習前に、心得として事前の準備をし、実習後に振り返りを行い、企業の評価を学生に伝える。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
施工演習Ⅰ	カーペット、カーテン、クロスなどの室内を構成している各種内装仕上げ材を取り上げ、その種類、特徴、施工方法、見積方法などについて学習する。また、各テーマごとに実際の施工方法に基づいた施工演習を行う。	トータルインテリアショップ仁助
施工演習Ⅱ	内装工事の種類について学ぶ。内装施工について、現場の要請に耐えうる技術を身につけるため各種内装仕上げ材の材料特性、施工方法、見積、採寸など、実習を交えた課題を行う。また、各テーマごとに実際の施工方法に基づいた施工演習を行う。	トータルインテリアショップ仁助
企業実習	履修するインテリアについての専門科目の成果を確認するために、連携する企業の現場で行われる各種作業を行う。実際に企業の主催する研修現場に赴き、実践的なスキルアップを目指すのと同時に、一社会人としての品格を磨く。	公益社団法人インテリア産業協会東北支部 宮城インテリアコーディネーター倶楽部
インテリアコーディネーター実務	様々な空間をコーディネートするために必要なコミュニケーション能力や、企画力・コンサルティング能力、プレゼンテーション能力、限られた期間の中で最高のインテリアを提供できるスケジュール管理の手法を学ぶ。将来インテリアコーディネーターとして仕事に携わるものとして必要な実務的知識・技術を総合的に学ぶ。	株式会社ホリエ
店舗計画	店舗全体のプランニングから設計、施工管理に至るまでを行う専門技術者の育成に必要な知識の習得を行う。様々な商業建設を業種別に分け、それぞれのプランニングや設計、施工に必要な知識について学習する。	中村デザイン事務所

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針

本校で実践する教育活動において、教員の資質向上を図ることを目的とした「教員の研修に関する規程」に基づき、計画的かつ組織的に研修を実施又は受講させる。研修には各専攻分野に関する知識・技術・技能等の修得・向上を目的とした「教員研修」と、授業及び指導力の向上を目的とした「養成研修」を設け、その研修によって身に付けた知識・技術・技能等を活かし、本校における教育の発展に貢献するよう努めるものとする。

(2) 研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名「ヨーロッパ最新トレンド&活用術セミナー」（連携企業等：東リ株式会社 公益社団法人インテリア産業協会東北支部賛助会員）

期間：平成28年7月8日（金） 対象：インテリア科教員

内容：インテリアコーディネーター、専門店経営者としての目線で捉え、ビジネスに活用できるセミナーを受講した。ヨーロッパにおける有名展示会の解説、トレンドの裏側や思想、概念を掘り下げ、どのようにそのトレンドを活用するのかや、実際にトレンドを活用した施行例の説明を受けた。

研修名「英国インテリアデザイン協会デザイン講話」（連携企業等：公益社団法人インテリア産業協会東北支部、宮城インテリアコーディネーター倶楽部）

期間：平成28年10月27日（金） 対象：インテリア科教員

内容：英国在住インテリアデザイナー澤山乃莉子氏を筆頭に、英国で活躍する英国インテリアデザイン協会に所属するダニエル・ホープウッド氏による実例施工を中心とした講話を受講した。

研修名「空間テクスチャーを考える、ミラノサローネ国際家具見本市」（連携企業等：アイカ工業株式会社）

期間：平成29年6月13日（火） 対象：インテリア科教員

内容：国内外で活躍する建築家堀場弘氏による住宅・環境・デザインといった幅広い分野にわたってレクチャーをする建築文化の向上と発展を目的とした研修セミナーを受講。また、イタリアで行われたミラノサローネ国際家具見本市の報告会・新商品を紹介・解説を受け新しいトレンドを把握した。

研修名「シエルホームデザイン現場見学会」（連携企業等：株式会社ホリエ）

期間：平成30年7月12日（木） 対象：インテリア科教員

内容：レストラン併設モデルハウス「テラス・ルヴァン・アカユ」を中心に、山形県南陽市周辺の着工現場を見学予定。現場では、設計士、インテリアコーディネーター、大工それぞれの視点から、進行状況や建材など詳細にわたり説明を受け、今後の指導に活かす知識・技術を磨く。

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名「第3回教員研修会」（連携企業等：日本学生相談学会）

期間：平成30年1月9日（火） 対象：全教員

内容：「学生相談支援について」

(3) 研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名「CLT工法研修」（連携企業等：株式会社 盛総合設計）

期間：平成30年9月19日（水） 対象：インテリア科教員・建築土木科教員

内容：加工木材で中高層の建築物を造る新しい工法であるCLT工法について学ぶ。

※CLT:Cross Laminated Timber

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名「第2回教員研修会」（連携企業等：青葉区保健福祉センター）

期間：9月11日（火） 対象：全教員

内容：「青年期のメンタルヘルスについて」

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」 関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

教職員が行った自己評価に基づき、校長から委嘱された学校関係者評価委員と校長から指名された教職員が、協働して教育活動等を分析・評価し、改善策を検討する。

また、専門的視点及び多角的な側面からのアプローチにより、教職員が行った自己評価について客観性や透明性を高めていく。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	学校の理念・目的・育成人材像は定められているか 他
(2) 学校運営	目的等に沿った運営方針が策定されているか 他
(3) 教育活動	教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか 他
(4) 学修成果	就職率の向上が図られているか 他
(5) 学生支援	進路・就職に関する支援体制は整備されているか 他
(6) 教育環境	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか 他
(7) 学生の受入れ募集	学生募集活動は、適正に行われているか 他
(8) 財務	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか 他
(9) 法令等の遵守	法令・専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか 他
(10) 社会貢献・地域貢献	—
(11) 国際交流	—

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

幅広い意見をいただき、社会ニーズ及び業界動向の把握・分析を行い、教育の質の確保に努める。

指摘を受けた事項は教務委員会等で検討し、各課程及び学科に具体的な改善策の検討を指示する。

指摘を受けた事項の改善については組織的に対応し、各委員へ進捗状況のフィードバックを行う。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成30年9月1日現在

名前	所属	任期	種別
海老主 勝義	愛子整形外科 事務長	平成30年4月1日～ 平成30年8月31日(5ヶ月)	企業等委員
熊坂 雅之	日本赤十字社 事務部長	平成30年9月1日～ 平成32年3月31日(1年7ヶ月)	企業等委員
栗原 憲昭	一般社団法人 宮城県建築士事務所協会 会長	平成30年4月1日～ 平成32年3月31日(2年)	業界団体
郡山 知之	株式会社日本眼科医療センター 代表取締役	平成30年4月1日～ 平成32年3月31日(2年)	企業等委員
中里 仁	NPO法人全国コミュニティライフサポートセンター 理事	平成30年4月1日～ 平成32年3月31日(2年)	企業等委員
立石 浩一	東北文化学園専門学校同窓会 会長	平成30年4月1日～ 平成32年3月31日(2年)	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ：毎年9月下旬)

<http://www.tbgu.ac.jp/college/>

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校は、企業・実習施設、関係団体等との連携及び協力の推進に資するため、教育活動、就職状況、学校運営の状況等について積極的な情報の開示に努めるものとする。なお、個人情報の取扱いについては「個人情報保護規程」を定め、学生・保護者へは入学時のオリエンテーション等で説明し、個人情報の漏えい等が無いよう配慮している。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校概要（教育理念、教育目標、学則） 講師紹介（校長名）、交通アクセス（所在地、連絡先） 事業報告書「学校法人の沿革」（沿革） キャンパスカレンダー（諸活動に関する計画） 事業報告書「東日本大震災の対応」「今後の地震等に備えた安全対策等の実施」（学校安全（防災等））
(2) 各学科等の教育	アドミッションポリシー（入学者に関する受入れ方針） 各科教育課程表（カリキュラム）コース紹介（特色、時間割） 取得資格紹介（資格取得）、事業報告書「国家資格取得の状況」（資格取得の実績） 就職実績（主な就職先）
(3) 教職員	講師紹介（教職員）、学園基本情報（教職員数）
(4) キャリア教育・実践的職業教育	事業報告書「就職支援及びキャリア形成支援の充実」（キャリア教育への取組状況） 就職サポート（就職支援等への取組状況）
(5) 様々な教育活動・教育環境	サークル活動（課外活動）
(6) 学生の生活支援	保健室、学生相談室（学生支援への取組状況）
(7) 学生納付金・修学支援	学費（学生納付金） 学費サポート制度（活用できる経済的支援措置の内容等）
(8) 学校の財務	事業報告書、貸借対照表、資金収支計算書、監査報告書
(9) 学校評価	自己評価、学校関係者評価報告書
(10) 国際連携の状況	—
(11) その他	財産目録（学校運営の状況に関するその他の情報）

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ：毎年9月下旬)

<http://www.tbgu.ac.jp/college>

## 授業科目等の概要

(工業専門課程 インテリア科) 平成30年度																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任		
○			国語表現	国語の基礎的・一般知識を理解し文章表現力を習得する。小論文作成力を向上させさまざまな文章に触れて読解力の向上を図り豊かな人間性を身につける。また就職活動を意識した文章表現や、美しい文字を書くことなども学ぶ。	1前	30	2	○			○			○		
○			数学基礎	工学的な専門知識を学ぶ上で必要となる数学の基礎的・一般知識を理解する。また将来インテリアコーディネーターとして必要となる知識や技術力の向上を目指すため、この授業を通じて数学の理解力を上げる。この授業を理解することで、力学や建築構造、施工演習といった授業の理解度を高める。	1後	30	2	○			○				○	
○			デッサン	立体物及び空間の正確な把握と表現力を身に付けるため、石膏デッサンや人体クロッキーなどを通して立体物の陰影表現を習得する。また平面及び立体構成の演習を行い、デザインの基礎を学ぶ。	1前	30	1	○			○			○		
○			インテリアコーディネーター実務	様々な空間をコーディネートするためには、コミュニケーション能力や、企画力・コンサルティング能力、プレゼンテーション能力、限られた期間の中で最高のインテリアを提供できるスケジュール管理能力が必要となる。将来インテリアコーディネーターとして仕事に携わるものとして必要な実務的知識・技術を総合的に学ぶ。	2通	60	2	○			○				○	○
○			カラーコーディネート	色彩の科学的、物理的基礎知識及び心理効果、配色技法等を演習を通じて学び、インテリアのカラーコーディネートテクニックを習得すると共に、「色彩能力検定」合格を目指す。またプレゼンテーション能力の向上を意識し、配色の重要性を学ぶ。	1前	30	2	○			○				○	







○		図学Ⅱ	図学Ⅰを基礎とし、より高度な遠近技法を学ぶ。表現方法として、一点透視図法、二点透視図法他に、アイソメ、アクソメ、俯瞰図といった課題を通じて、表現技術力を養い、インテリアコーディネーターとしてのプレゼンテーション能力を身に付ける。	1 後	45	1.5	○	○	○					
○		表現技術演習	立体表現を行う上で必要な技術を練習する。さまざまな素材を使用し、表現を行うことでプレゼンテーション能力を養う。室内空間模型を主とし、素材の加工技術を駆使し、立体表現方法の技法を学ぶ。	2 前	45	1.5	○	○	○					
○		施工演習Ⅰ	カーペット、カーテン、クロスなど室内を構成している各種内装仕上げ材を取り上げ、その種類、特徴、施工方法、見積方法などについて学習する。また、各テーマごとに実際の施工方法に基づいた施工演習を行う。	2 前	30	1	○	○			○	○		
○		施工演習Ⅱ	内装工事の種類について学ぶ。内装施工について、現場の要請に耐える技術をできる各種内装仕上げ材の材料特性、施工方法、見積、採寸など、実習を交えた課題を行う。また、各テーマごとに実際の施工方法に基づいた施工演習を行う。	2 後	30	1	○	○			○	○		
○		福祉住環境講座	高齢者や障害者に対して、できるだけ自立しいきいきと生活できる住環境を提案する能力を養う。介護や福祉の基本的な知識を学び、住環境を提案する上で配慮できることを目的とする。施設訪問や見学会を通じ、実社会の現状に即した学びを重視する。	1 前	30	2	○		○	○				
○		店舗計画	店舗全体のプランニングから設計、施工管理に至るまでを行う専門技術者の育成に必要な知識の習得を行う。様々な商業建設を業種別に分け、それぞれのプランニングや設計、施工に必要な知識について学習する。	1 後	30	2	○		○			○	○	
○		人間工学	人間が可能な限り自然な動きや状態になるようにものや環境をデザインするために、人体の計測、姿勢、動作分析、作業域について学び、家具や住空間との関わり合いを理解する。さらに人間の生理、心理学的な諸特性に適合させる科学としても学ぶ。	1 前	30	2	○		○			○		

○		建築構造	複雑な建築の構造を理解するため、建築物の施工順序に従い、地質調査、基礎構造（木造、鉄筋コンクリート、鉄骨造など）へと進め、部材名称及び関連用語を学習する。またインテリアコーディネーターとして必要な構造知識を学ぶ。	2 後	30	2	○			○			○
○		建築計画 I	建築物の規模、寸法、動線を計画する力を養う。住宅の平面計画を中心に、敷地の選定から建物の配置、間取りの考え方など建築計画の手法を学ぶ。基本的な家族生活をふまえ、工夫して豊かに暮らせる家づくりを目指す。	1 前	30	2	○			○			○
○		建築計画 II	平面計画に必要な要素を理解し、説明できる力を養う。平面計画の方法を理論的に学び、問題解決に生かすことができ、さらに後半ではリフォームや高齢者を対象とした住宅など、現代求められる住宅計画を考える。	1 後	30	2	○			○			○
○		建築史 I	西洋建築史、日本建築史、近代建築史における主な様式と家具・プロダクトの歴史について学習する。さらに、建築設計にかかわる大規模な歴史的建造物について深く学び、建築構造や都市計画など建築デザインの基礎となる知識を習得する。	1 前	30	2	○			○			○
○		建築史 II	西洋の建築様式と、内装デザイン、家具デザインの変遷を見せ、社会的な背景との関連を学習する。西洋の近代の建築家の主な業績を辿り、国際建築様式の成立までの構造的解決について補説する。日本の現代の都市計画の実際をしめしながら、著名な建築家の都市計画についての考え方を習得する。	1 後	30	2	○			○			○
○		構造力学 I	建築物に働く各種の外力とその作用に伴い生ずる応力を、基本的な静定構造について梁、ラーメン、トラスの解析を行う。さらに、各種応力についてそれぞれの部材に生ずる応力度（単位断面積当たりの応力）の計算方法及び許容応力度との比較を行う。	2 前	30	2	○			○			○
○		構造力学 II	構造力学 I に引き続き、構造物内の力の流れ方について、ラーメン構造を対象として説明する。また各応力及び応力図の求め方を説明する。後半部では、断面の諸係数について意味や解き方を学ぶ。さらに断面の諸係数を用いながら各応力度についても求め方を解説し、構造力学のまとめを行う。	2 後	30	2	○			○			○

○		建築法規Ⅰ	建築物の設計・工事管理を安全に行うために必要な建築基準法、さらにコーディネーターの業務、消費者の安全確保に必要な消費者保護基本法、家庭用品品質表示法等について学習する。	2 前	30	2	○			○			○
○		建築法規Ⅱ	建築法規Ⅰに引き続き、インテリアの現場で必要とされる法規制を中心に、実務でインテリア計画をする際の留意事項を学ぶ。さらに、建築物の設計・工事管理を安全に行うために必要な建築基準法の実務的な役割と、消防法、都市計画法、建築士法、建設業法、単体規定、集団規定、労働安全法規等について学習する。	2 後	30	2	○			○			○
○		環境工学	人間がより快適に、そして健康的に生活するために室内環境はどうあるべきか。このことをテーマに、人と建築を取り巻く環境「室内の暖かさ・冷たさ、音響、太陽光線と生活（日照・採光）、換気、色彩計画など」について、基本的事項を理解し、適切な室内環境を作り出す方法を考察する。	1 後	30	2	○			○			○
○		建築設備	建築に対するクレームは設備関係に最も多く、適切な設備工事を行わないと、トラブルの原因となる。ここでは快適な室内空間をつくるために必要不可欠な給排水設備、空調設備、電気設備等の基礎知識を習得する。	2 後	30	2	○			○			○
○		CAD製図Ⅰ	二次元CAD(JW-CAD)の基本操作を修得し、CADで図面が描けるようになる。建築図面を作成するCADのスキルの修得と、これを理解するためのCADの理論(座標系、レイヤー、データ変換など)を学習する。	1 前	45	1.5	○			○			○
○		CAD製図Ⅱ	建築図面の手続きによる製図をコンピューターに置き換え、より正確に美しく作図するという行為を念頭にCADの基本操作を習得し、基本的な建築図面、インテリア図面の作図方法を学ぶ。また、図面を完成させる正確さやスピード力を養うことも目的としている。	1 後	45	1.5	○			○			○



		○	インテリアコーディネーター講座Ⅰ	インテリアコーディネーター試験の一次試験対策講座として開講する。インテリアコーディネーターとして必要な専門知識を養い、資格検定の合格を目指す。具体的には、歴史、計画、業務内容などインテリアの全体像を理解する。	1 前	30	2	○			○		○	
		○	インテリアコーディネーター講座Ⅱ	インテリアコーディネーター試験の一次試験対策講座として開講する。インテリアコーディネーターとして必要な専門知識を養い、資格検定の合格を目指す。具体的には、室内環境とそれを支える設備や実務に必要な知識、プレゼンテーションの表現方法などインテリアの全体像を理解する。	1 後	30	2	○			○			○
		○	インテリアコーディネーター講座Ⅲ	インテリアコーディネーター試験の一次試験対策講座として開講する。インテリアコーディネーターとして必要な専門知識を養い、資格検定の合格を目指す。具体的には、構造・構法に関する知識・技術や仕上げに使う塗料や機能材料などインテリアの全体像を理解する。	2 前	30	2	○			○		○	
		○	インテリアコーディネーター講座Ⅳ	インテリアコーディネーター試験の対二次試験対策講座として開講する。二次試験対策において必要とされる技術や知識、とくに実技試験における問題の理解力、透視図や立面図、アイソメ図といった能力を身に付けるよう実践的に課題に取り組む。最終的には、インテリアコーディネーター資格検定の合格を目指す。	2 後	30	2	○			○		○	
		○	資格対策講座	資格試験に関する講義を行う。主な対象検定は、色彩検定と福祉住環境コーディネーターとなる。それぞれ各検定の受験に合わせた専門知識を養い、資格検定合格を目指し個人のスキルアップを行う。	1 前	30	2	○			○		○	○
○			生活・就職指導	—	1 ～ 2 通	60	0	○			○		○	
合計				52科目		1,845単位時間(83単位)								

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
授業科目ごとに、出席時数が指定時数の3分の2以上の履修科目に対し修得の認定を行い、定期試験及び平常時の成績等の総合的評価がC判定以上	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。